掲載許可番号：d20250515-02

ソラマメ さやむけたよ

松山・桑原小 食育 短大生も協力

短大生に教わりながらソラマメをさやから取り出す児童

読もう！

絵本の読み聞かせや体験を通じて小学生に旬の食材への関心を高めてもらうイベントが13日、松山市桑原3丁目の桑原小学校であり、1年生約160人がソラマメのさやむき体験などを楽しんだ。

就学の円滑な接続を目指し、地域と教育機関が連携して子どもたちを支える文部科学省の「幼保小の架け橋プログラム」の一環。松山東雲短期大保育科の1年生10人が協力した。

児童はソラマメを題材にした絵本の読み聞かせで豆の種類などを学んだ後、10人ほどの班に分かれてソラマメをさやから取り出す作業を実施。旬の野菜の手触りや香りを感じながら重さ約100キロ分の素材から豆を取り出した。

参加した同校1年坂本美月さん(6)は「おうちでもよくむいている。たくさんむけて楽しかった」と満足げ。同短大の岡田恵准教授は「小学校で行われる教育につながるようなことを幼児教育の遊びの中にも取り入れられる。学生には意図的に関わることを身につけてほしい」と話す。

取り出したソラマメは14日にかき揚げに調理され、同校など松山市内の小中学校5校の給食で提供される。

（金尾公貴）